

サビエル記念聖堂

サビエル記念聖堂は 16 世紀半ばに西日本にキリスト教を広めたイエズス会修道士、フランシスコ・サビエル（1506 年－1552 年）の遺産を保存しています。この聖堂はすっきりとしたラインと三角形のフォルムを備えたモダンなデザインです。現在の建物は、1952 年に建てられた元の建物が 1991 年の火災で焼失した後、1998 年に建設されました。1 階はサビエルの生涯と日本でのキリスト教の発展をテーマにした博物館です。礼拝堂は 2 階にあり、床から天井まで届く高さのものを含む大胆なモダニズムのステンドグラスの窓があります。

フランシスコ・サビエルは 1549 年にポルトガル領インドから現在の鹿児島県に到着しました。彼は九州で布教活動を開始し、家臣や臣下とともに大名にカトリックへの改宗を奨励しました。彼は 1551 年に現在の山口市を 2 か月間訪問し、大名である大内義隆（1507 年－1551 年）と会いました。義隆はフランシスコ・サビエルの領土内での布教を許可して寺院を与え、サビエルはそれを日本初のキリスト教会として再利用しました。フランシスコ・サビエルは山口に滞在した 2 か月間で約 500 人に洗礼を授けたとされています。

聖堂内の展示は、絵画、地図、その他の歴史的文書を通じてフランシスコ・サビエルの生涯を紹介しています。また、16 世紀の伝来から 17、18、19 世紀の禁止に至るまでの日本におけるキリスト教の発展についても説明しています。金箔の屏風にはサビエルの日本到着とその後の日本滞在中のエピソードが描かれています。隠れキリシタンの絵が描かれた仏教風の石灯籠などの工芸品は宗教が非合法化された後、孤立したコミュニティで秘密裏に信仰を維持した隠れキリシタンの生活について説明しています。

博物館の入場料は有料で、礼拝が行われていない時間には礼拝堂を見学することができます。